

課題番号 : F-16-KT-0084  
利用形態 : 技術代行  
利用課題名(日本語) : X線1分子計測法で利用可能なサイズ制御されたナノ粒子の作製  
Program Title(English) : Fabrication of the size-controlled nano-particles for X-ray single molecular measurements  
利用者名(日本語) : 清水 啓史  
Username(English) : Hirofumi Shimizu  
所属名(日本語) : 福井大学医学部医学科  
Affiliation(English) : University of Fukui, Faculty of Medical Sciences

## 1. 概要(Summary)

X線1分子計測法では蛋白質の分子内構造変化を、金属ナノ結晶を観測プローブとし、放射光X線を観測光として動画計測する。本研究では、運動計測を定量的に行うことを目的として、観測プローブとして利用できる金ナノ結晶をサイズ制御して作製し、走査型電子顕微鏡にて粒子パターン及びそのサイズを計測した。

## 2. 実験(Experimental)

### 【利用した主な装置】

高速高精度電子ビーム描画装置、ドライエッチング装置、超高分解能電界放出形走査電子顕微鏡

### 【実験方法】

高速高精度電子ビーム描画装置を用いて金薄膜を製膜した各種基板上に塗布したフォトレジストをパターンニングし、ドライエッチングすることにより、金薄膜のナノスケールでのパターンニングを実現した。パターンニング後に申請者の研究室のアニーリング装置にて金粒子の結晶性を向上させる目的で基板をアニーリングした。

## 3. 結果と考察(Results and Discussion)

様々な基板上に金薄膜蒸着を行い、作製した金薄膜に直接描画することでナノパターンニングを実現した。そのパターンニングの成否を走査型電子顕微鏡を用いて観測し、設定した任意の粒子間隔でのナノパターンの形成を確認した(Fig. 1)。また、アニーリング条件を検討し、アニーリング後に形成した金ナノ粒子の結晶性の評価を別途、放射光施設にて行った。その結果、アニーリング後もパターンニングを崩さないアニーリングの条件を見出した。

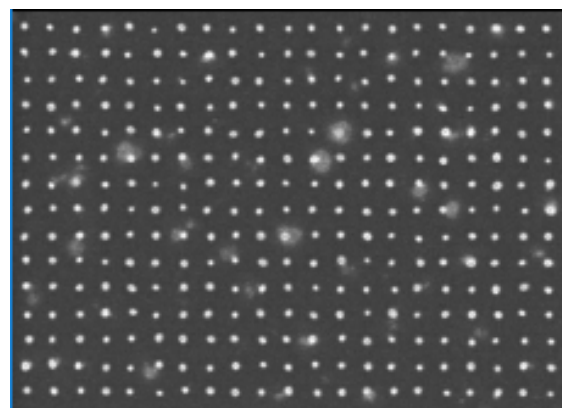


Fig. 1 SEM image of Au nano-particle on the substrate.

X線1分子動態計測法では、観測プローブのサイズが蛋白質の分子内運動の計測結果にどのような影響を及ぼすか、その評価が重要である。本研究の成果は、将来様々なサイズにサイズ制御した観測プローブを用いた運動計測を行う際に重要な成果となった。

## 4. その他・特記事項(Others)

なし。

## 5. 論文・学会発表(Publication/Presentation)

- (1) Hirofumi Shimizu, Masayuki Iwamoto. 'The introduction of temperature-jump system to the Diffracted X-ray Tracking (DXT)' The 54<sup>th</sup> Annual meeting of the biophysical society of Japan, 25-27 Nov. 2016, Tsukuba, Japan.

## 6. 関連特許(Patent)

なし。